

# 不条理

もう東日本の震災より、一年過ぎました。未だ復興・復旧もがれきなどの問題もありなかなかむずかしいところがあります。福島の原発も何年かかることやら、メドがたちません。この災害が起こったとき、なぜ「被災する」人が出来るのか、人間の不条理を考えさせられました。それが「前世からの定めだったのだ」「人生は無常だ」、はては「天罰だ」発言までいろいろな意見がありましようが、不条理としか言いようのないことです。あの災害の後「がんばろう日本」「犠牲になられた方に心より哀悼の意を表します」「被災された方にお見舞い申し上げます」「元気を与えるために何かしたい」「私はあなたと共にいる」「被災者に寄り添う」と、多くの人々が声高々に宣言し、マスメディアもそれを喧伝します。そのことに異を唱えようものなら日本人でないような印象さえあります。しかしそこに言葉の持つ怪しさが感じられてならないのです。勿論、人々の善意は疑わないとして本当にこのことを行なうべきではありません。映像を見たびに、人間の無力さを思い知らされます。無数の家や車が津波に流される映像には映らなくても、あの波の中におそらく飲み込まれていた人たちを想像しますと、何も出来ない人間の力とは何なのか、なおさらにその事を思います。私たちはこの人間の無力さ、不条理なことを忘れていたのかもしれません。進歩とか成長とかを旗印に、何でもすべてを人間の「思い通り」出来ると思っていたのだということを。お金と科学技術を使いながら追いかけてきました。便利さと樂をしようと、思い通りの世界を造ることが人間の共通目標としてきました。地震予知とか、想定内もすべて人間の思い通りの都合の良いように設定されたといふことでしよう。人間の設定した条件でしか成り立たない事を、設定した人も設定された方も忘れていたのです。想定外のことを考える事を止めていたのです。想定内で済めば災害は起こらないはずなのです。人間が何でも思い通りにしようとする心を仏教では「無明」と言います。原発事故を起こした電力会社、推進してきた人たちの責任が問われています。周辺住民や避難されている方々は被害者です。しかし同時に地元の人たちは原発の誘致によって補助金や雇用で潤つたのも事実です。又造られた電力は首都圏のためのものです。その人たちも「思い通りにしよう」「電力をよこせ」と願つたはずなのです。そのようなことに了解して出来たのが原発ですから責任の一端は誰というより「人間」そのものの根幹にあると思います。この震災は人間の思い通りに生きることの挫折を意味しています。視点を変える大切さを思います。又、元の通りに復興すれば良いのか、原子力がだめなら風力、火力、太陽光、に転換していき通りにしようとする「無明」の心ではないでしょうか。進歩や成長を追うこと修正する理念が大切なのです。「国難」とか「非常時」とか言われていますが「みんなが思い通りにする」のではなく「節度とほどほど」が求められます。それは我慢などではなく自分の無力さを知るところから始まります。仏教の「人間の無明」が苦の原因ということはこのことを言つています。それは被災を受けていない人たちこそが担つていくべきものであります。